

◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI

DIGITAL PIANO^{PW} 810

取扱説明書

KAWAI MUSICAL INSTRUMENTS MFG. CO., LTD.

■ ごあいさつ

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。 KAWAI 電子ピアノは、ピアノの音色はもちろんオルガンなど全8種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブ、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングなど多種多様な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーにとんだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛顧いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

■ 使用上の注意

ここでは、本商品を使用するに当たり、禁止事項もしくは注意事項を挙げています。使用者の安全に関わる事ですので、必ずお読みください。

■ マークの意味



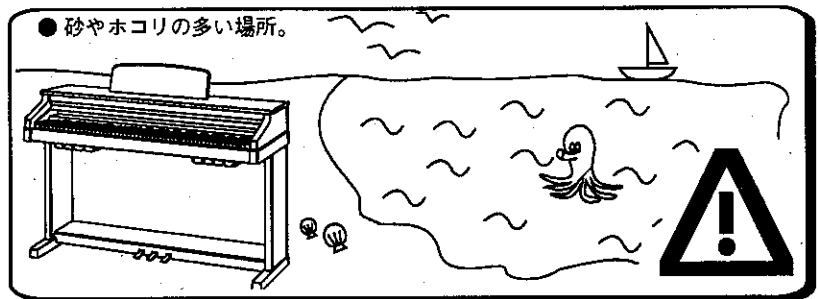
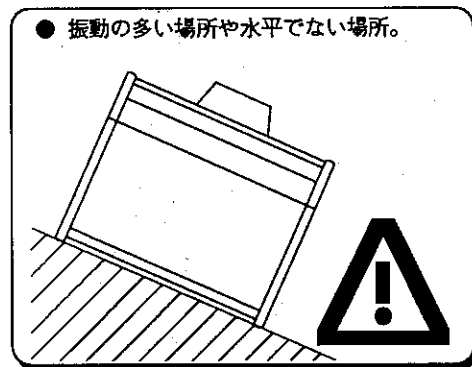
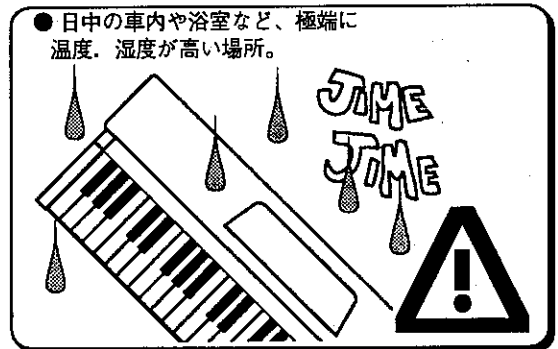
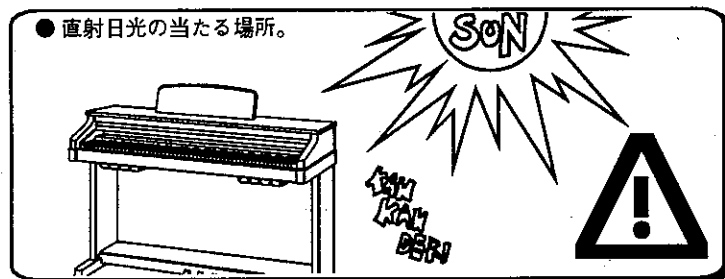
注意記号



禁止記号

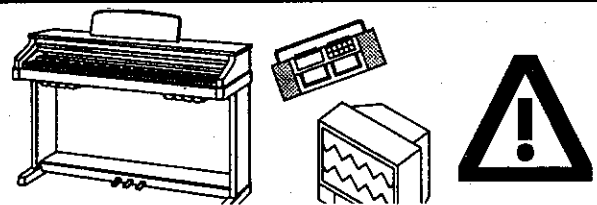
■ 設置場所について

次のような場所でのご使用は故障の原因となりますので避けてください。

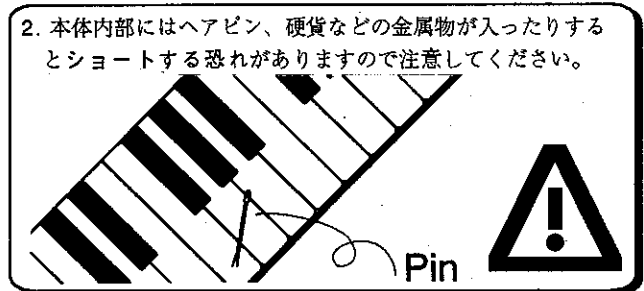
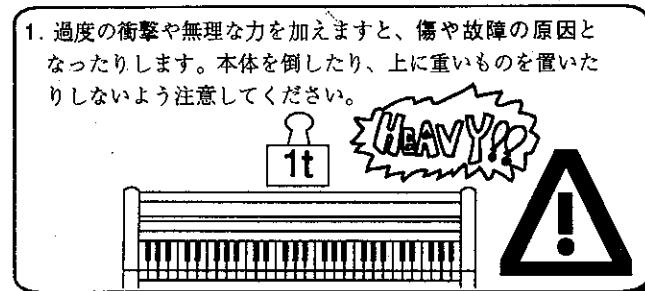


■ 雑音について

極近くでラジオやテレビ、蛍光灯、モーターを有する電気機器がありますと、雑音の原因となることがあります。十分離してご使用ください。



■ 取扱について

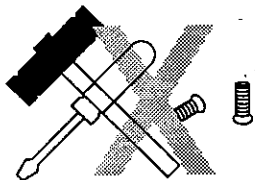


■ 使用上の注意

3. コード類を接続する場合は、接続する各楽器の電源を切った状態で行ってください。
電源をいれたまま接続すると、各機器に急激に電圧がかかることになり故障の原因となります。



5. 分解したり改造を行うと、感電したり、故障の原因となりますので絶対に行わないでください。



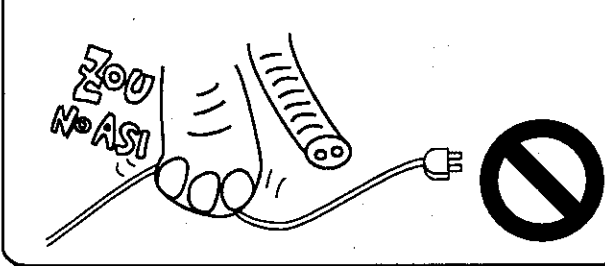
7. 煙りが出ている、変な音がするなど異常な状態のままで使用し続けると、火災の恐れがあります。
すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。



4. コップ、花瓶など水（液体）の入った容器をそばに置かないようにしてください。こぼれて内部に水が入りますと故障や火災の原因となり大変危険です。



6. 電源コードの上に重い物を載せないようにしてください。
コードが傷つければ、火災や感電の恐れがあります。



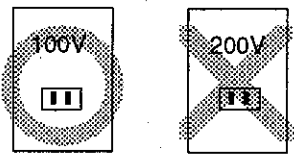
■ 外装のお手入れについて

汚れは柔らかい布で拭いてください。それでも汚れが落ちないときは、布を水で湿らせて拭いてください。
アルコールやシンナーを使用すると色落ちしますので使わないでください。

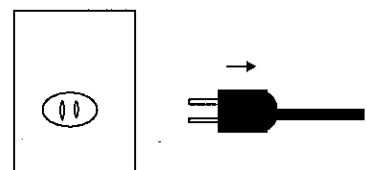


■ 電源について

1. 電源は、家庭用100Vのコンセントを、ご使用ください。
外国などで100V以外の電源を使用しますと、火災や故障の原因となり大変危険ですので絶対にやめてください。



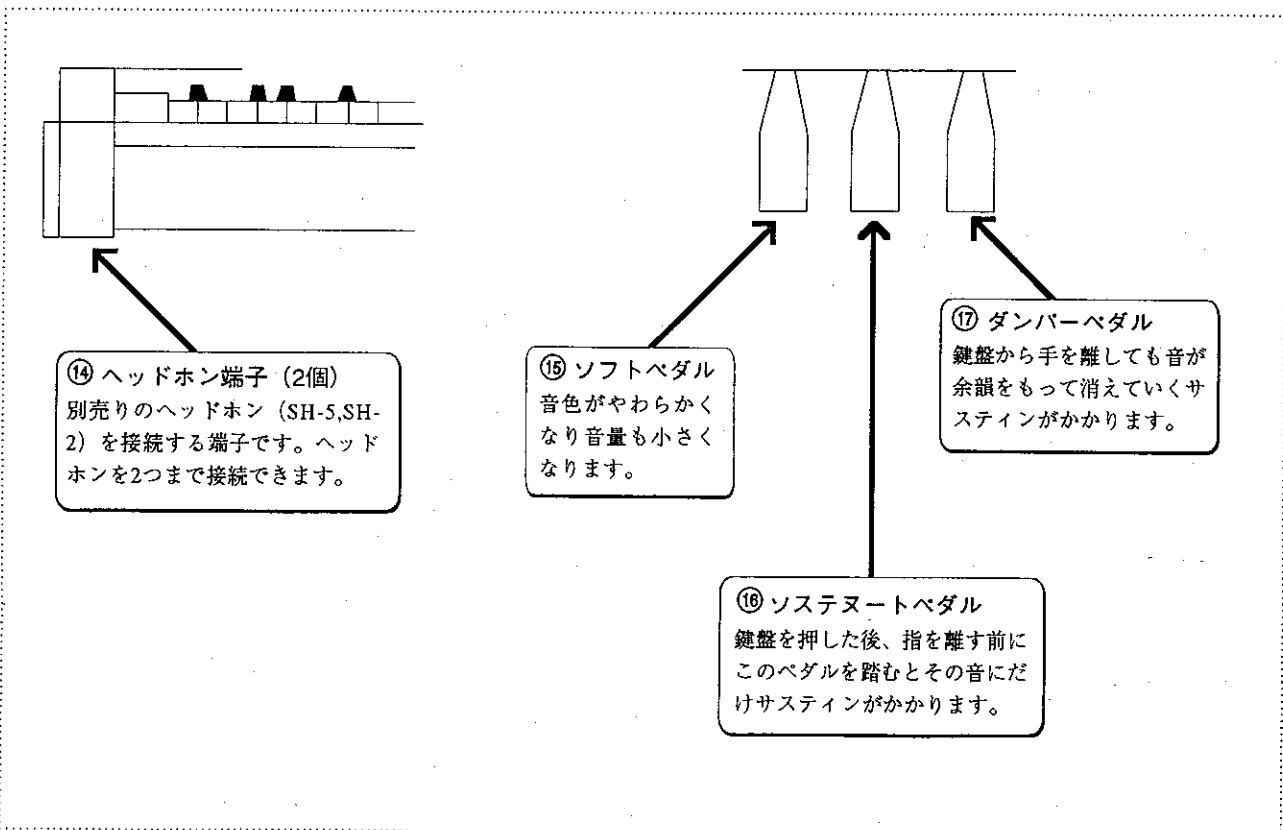
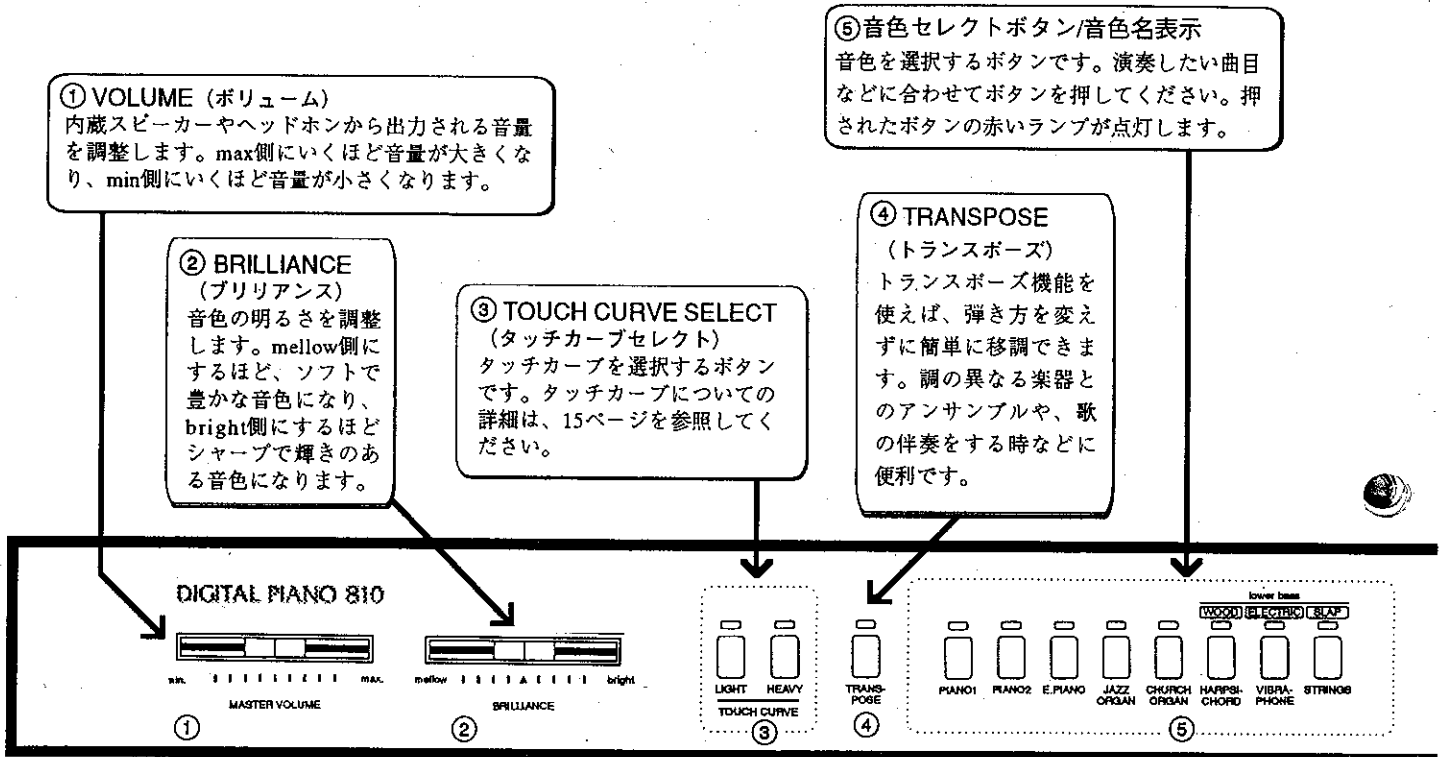
2. 使用後は、必ず電源を切ってください。
また長時間ご使用なされない場合や雷が鳴っている最中は、コンセントより電源プラグを取り外してください。
故障、火災の原因となります。

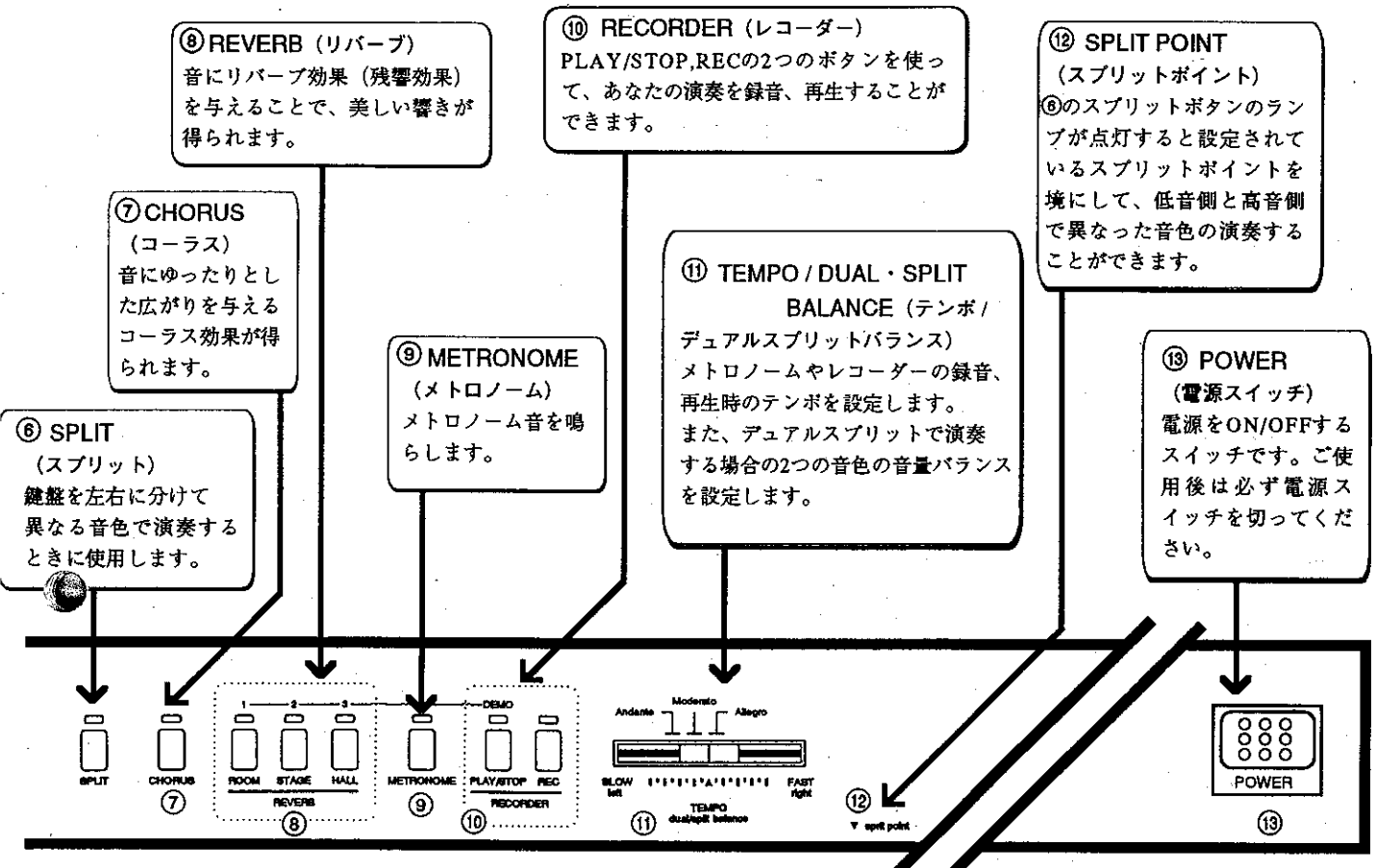


目次

1.各部の名称と働き	6
2.演奏してみましょう。	8
1) 基本操作	8
2) デュアル演奏とスプリット演奏	10
3) トランスポーズ	14
4) タッチカーブ	15
5) デモ曲の演奏	16
6) メトロノーム	18
3.録音・再生してみましょう。	20
1) カンタン録音 (曲No.1への録音)	20
2) カンタン再生 (曲No.1の再生)	21
3) 通常の録音 (曲No.2~5への録音)	22
4) 通常の再生 (曲No.2~5 の再生)	24
5) パート別の再生 (パートのミュート)	25
6) 曲の消去	26
4.その他の機能の使い方 (設定モード)	27
1) スプリット・ポイントの変更	29
2) チューニング	30
3) 音律の設定	31
4) メトロノームボリューム	33
5) メトロノームの拍子	34
6) レコーダーのミュートボリューム	35
■ MIDI機能の使い方	36
7) MIDI送信・受信チャンネル	39
8) プログラム (音色) ナンバー送信	40
9) マルチ・ティンバー・モード	43
10) マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音	45
11) ローカルコントロール	46
12) ワンタッチローカルコントロールオフ	47
■ 主な仕様	48
MIDI インプリメンテーションチャート	49

1. 各部の名称と働き





⑬ LINE OUT (ライン出力端子)

本機の音を他の外部機器 (アンプ、ステレオ) などで聴いたり、テープデッキに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。R (アール) は右側、L/MONO (エル/モノ) は左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONO側から出力されています。

⑭ LINE IN (ライン入力端子)

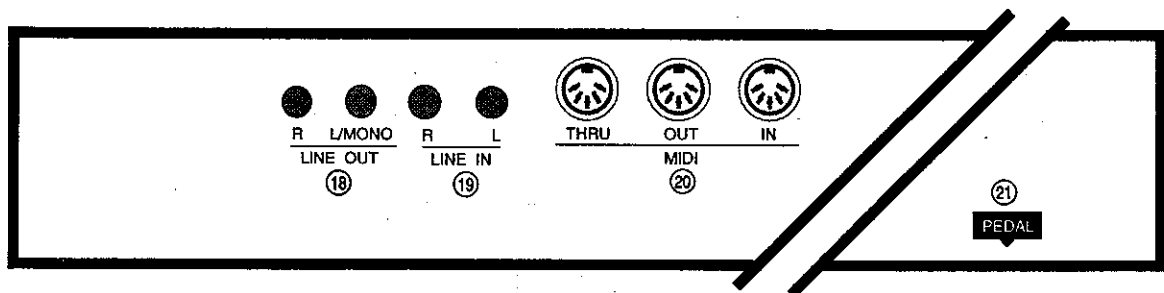
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R (アール) は右側、L (エル) は左側の入力を示しています。

⑮ MIDI (ミディ)

MIDI規格に対応している楽器などを接続するための端子です。

⑯ PEDAL (ペダル端子表示)

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのプラグをを接続する端子の位置を示します。



2. 演奏してみましょう。

1) 基本操作

ここでは、音を出すまでの基本的な手順を説明します。

ステップ 1 電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

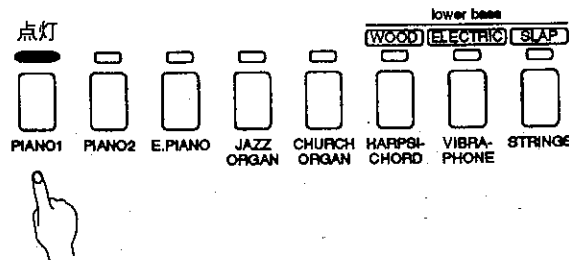
ステップ 2 POWERボタン⑬を押して電源をONにします。

ステップ 3 VOLUMEダイヤル①、BRILLIANCEダイヤル②を中央付近にセットしてください。



ステップ 4 音色を選びましょう。

音色セレクトボタン5の中から好きな音色1つ選んで押してください。押された音色のランプが点灯します。



■ 電源をONにした時は、自動的にPIANO1の音色が選択されます。

■ 本機では以下の8種類の音色を内蔵しています。

- ◆ PIANO1
- ◆ PIANO2
- ◆ E.PIANO
- ◆ JAZZ ORGAN
- ◆ CHURCH ORGAN
- ◆ HARPSICHORD
- ◆ VIBRAPHONE
- ◆ STRINGS

ステップ5 鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば「ステップ4」で選んだ音で演奏することができます。

音量を調節したい時は、VOLUMEバー①でお好みの音量に設定してください。

また、BRILLIANCEバー②で音の明るさも自由に調節してください。

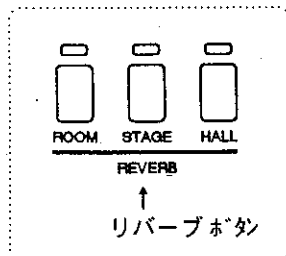
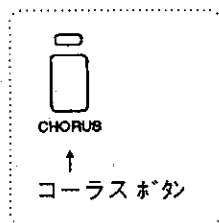


■ 複数の鍵盤を同時に押した場合、32音まで発音します。

ステップ6 必要に応じてコーラスの効果を加えたりリバーブの設定を変えてみましょう。

ここでは、音に効果を与えるエフェクトの中でも代表的なコーラスとリバーブをかけることができます。

本機では、1種類のコーラスと3種類のリバーブを用意しています。パネル上のCHORUSボタン⑦を押せばコーラス、REVERBボタン⑧を押せばリバーブの効果を音に与える事ができます。POWER ON時には、ROOM REVERBがONになります。また、E.PIANO、JAZZ ORGAN、CHURCH ORGAN、VIBRAPHONE、STRINGSは音色選択時にコーラスが自動的にONになり、PIANO 1,2、HARPSICHORDは、音色選択時にコーラスが自動的にOFFになります。コーラス、リバーブ各効果に関しては以下に説明を加えておきます。



■ **コーラス** コーラス効果を加えると音に広がり加わります。
本機でコーラスを使用した場合、複数の鍵盤を同時に押した場合、16音まで発音します。

■ **リバーブ** リバーブ効果を加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
本機では、以下の3種類のリバーブを用意しています。

- ◆ ROOM 室内で演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。
- ◆ STAGE ステージで演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。
- ◆ HALL ホールで演奏している時にかかる残響効果を模擬しています。

■ 音色によっては、これらの効果の加わり方が異なる場合があります。

2) デュアル演奏とスプリット演奏

本機には、2つの音色を使って同時に演奏する事ができます
デュアル演奏とスプリット演奏がそれで、それぞれ以下の様なものです。

■ デュアル演奏

デュアル演奏では2つの音色を重ね合わせる事ができます。すなわち鍵盤を弾けば、設定した2つの音色が同時に発音され音に独特の厚みを得ることができます。

■ スプリット演奏

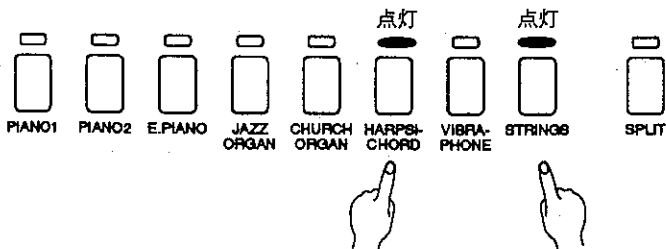
鍵盤を左右2つに分けるスプリットポイントを境に、鍵盤の高音側、低音側それぞれに別々の音色を設定しアンサンブル演奏をすることができます。

次より上記2種類の演奏の設定方法をそれぞれ説明していきます。

■ デュアル演奏

ステップ 1 重ね合わせる2つの音色を設定します。

重ね合わせる2つの音色を決めたら、音色セレクトボタン⑤の中より重ね合わせる2つの音色ボタンの内1つの音色ボタンを押しながらもう1つの音色ボタンを押します。すると押された2つの音色ボタンが点灯します。



ステップ 2 鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した2つの音色が重なって発音されます。

- デュアル演奏では、複数の鍵盤を同時に押えた場合、16音まで発音します。
- また、デュアル演奏を設定した時に以前に設定していたコーラスの効果は自動的にキャンセルされます。コーラス効果を加えたい時は、再度コーラスボタン⑦を押してください。

ステップ 3 デュアル演奏を解除する時

デュアル演奏を解除する時は、音色セレクトボタンのどれか1つを選んで押し直せば、その押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

- 本機では、デュアル演奏時に発音される2つの音色の音量バランスを設定することができます。この設定方法は、13ページを参照ください。

■ スプリット演奏

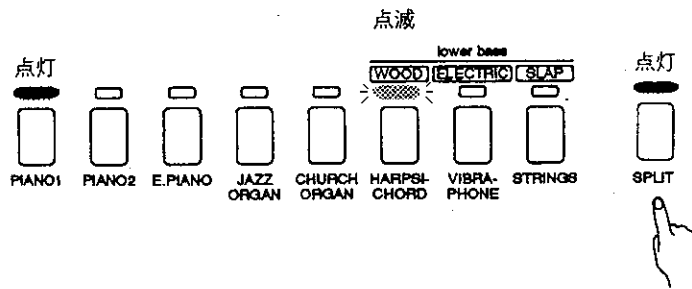
スプリットとは、鍵盤を2つに分けることを言い、スプリットポイントは、その分割点を意味します。
本機では、電源を入れた時には、フロントパネル上の SPLIT POINT と表示が指し示している箇所に、スプリットポイントが設定されています。

ステップ1 スプリット演奏をONにします。

SPLITボタン⑧を押します。

するとボタンの上のランプが点灯し、スプリット演奏が可能な状態であることを示します。

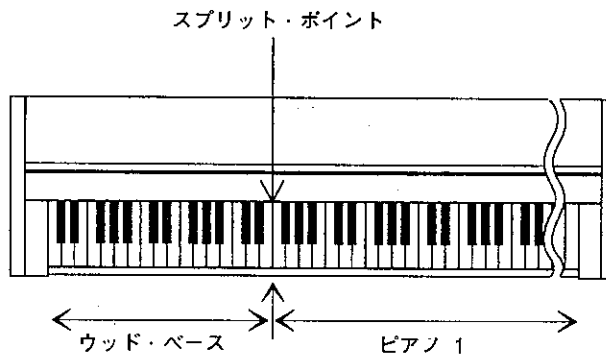
現在選ばれている音色が高音側となります。また、低音側の音色として初期設定されているWOODBASSのランプが点滅します。



ステップ2 鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば、スプリットポイントを境に別々の音色で発音されます。

右手でコードとメロディー、左手でベースラインを弾いてアンサンブル演奏を楽しむことができます。



ステップ 3 音色の切替を行きましょう。

スプリット演奏を行う時、高音側と低音側の音色を変更することができます。
以下の方法で音色を変更してください。

■ 高音側の音色を切り変える方法

高音側の音色を切り変える場合、そのままの状態希望の音色セレクトボタン⑤を押します。
点灯が今押したボタンへ移動し、音色の切替が終了します。

■ 低音側の音色を切り変える方法

低音側の音色を切り変えるには、SPLITボタン⑥を押しながら希望の音色ボタンを音色セレクトボタン⑤の中より1つ選んで押します。音色セレクトボタンの右から3つ [lower bass] を押すとボタンの上に表示されている WOOD BASS / ELECTRIC BASS / SLAP BASS の音色が選択できます。さらにもう一度ボタンを押せば、ボタンの下に表示されている HARP SICHORD / VIBRAPHONE / STRINGS の音色を選択できます。

ステップ 4 スプリット演奏を止める時

スプリット演奏を止める時は、再度SPLITボタン⑥を押します。
SPLITボタンの上のランプが消灯し元の通常の演奏状態へ戻ります。

■ スプリット演奏時の設定で、以下の様な2種類の設定を行うことができます。

- ◆ 高音側と低音側の音量バランスの設定。(13ページ参照)
- ◆ スプリットポイントの変更(29ページ参照)

詳細は、()内のページで説明しています。

■ また、スプリット演奏を設定した時に以前に設定していたコーラスの効果は自動的にキャンセルされます。
コーラス効果を加えたい時は、再度CHORUSボタン⑦を押してください。

■ デュアル/スプリットバランスの調整

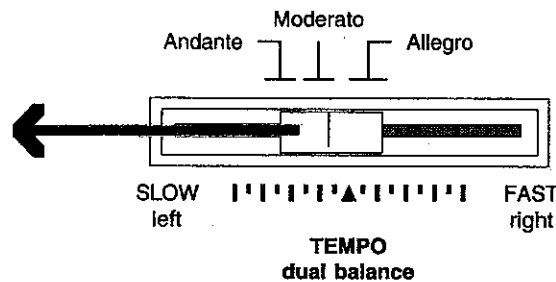
ここでは、デュアルおよびスプリット演奏時での2つの音色の音量バランスを調節します。

ステップ1 デュアル/スプリットバランスの設定をします。

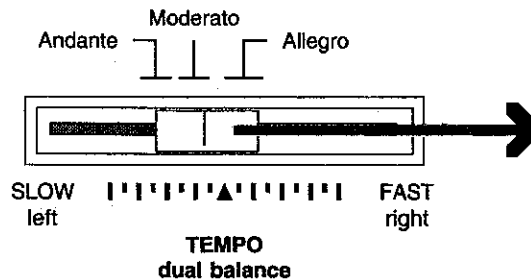
設定は、鍵盤を弾き音を聴きながらテンポスライダーで行います。
テンポスライダーと音量の関係は、以下の通りです。

■ テンポスライダーと音量の関係

左側に動かすと、デュアル時はパネル音色ボタンの左側音色の音量、スプリット時は、低音側鍵盤の音色の音量が大きくなります。



右側に動かすと、デュアル時はパネル音色ボタンの右側音色の音量、スプリット時は、高音側鍵盤の音色の音量が大きくなります。



■ テンポスライダーは、デュアル/スプリット演奏時に、重ね合わさった/左右の音量バランスの調節を行います。通常の演奏時は、メトロノームのテンポ値を設定するのに使用します。
デュアル/スプリット演奏時にメトロノームを鳴らした場合は、メトロノームボタンを押してメトロノームが鳴り始めた時よりテンポスライダーは、テンポの値を設定するためのスライダーとなります。この時音量のバランスは、メトロノームを鳴らす以前に設定した値に固定され、メトロノームを止めないと調節することはできません。

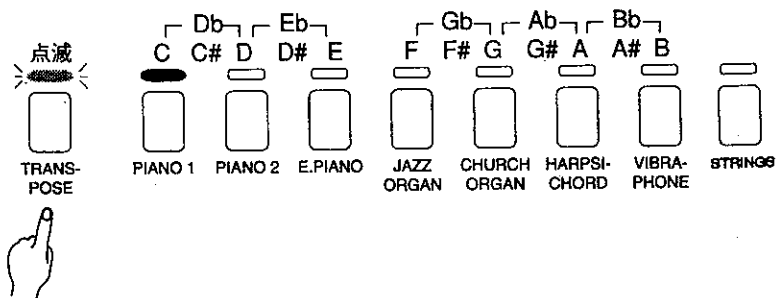
- 電源をONし直すとスプリットポイントは元に戻ります。
- ここで設定したバランスは、デュアル及びスプリットの全ての音色の組み合わせに共通です。
- このモードで、テンポスライダーを動かしても、メトロノームのテンポには影響しません。

3) トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。
付属の早見表を本機に貼付けると操作がわかりやすくなります。

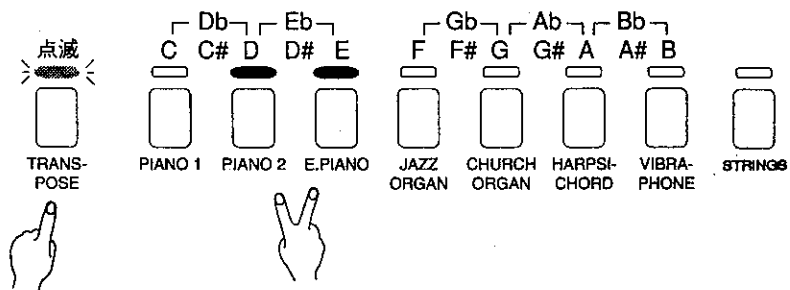
ステップ 1 TRANSPOSE ボタン④を押し続けます。

TRANSPOSE ボタンのランプが点滅し、現在セットされている調のランプが点灯します。



■ 電源ON時はハ長調 (C) に設定されます。

ステップ 2 TRANSPOSE ボタンを押したまま変更したい調のボタンを押します。
#の付いた中間の調に変更したい時はその調の両脇のボタンを同時に押します。

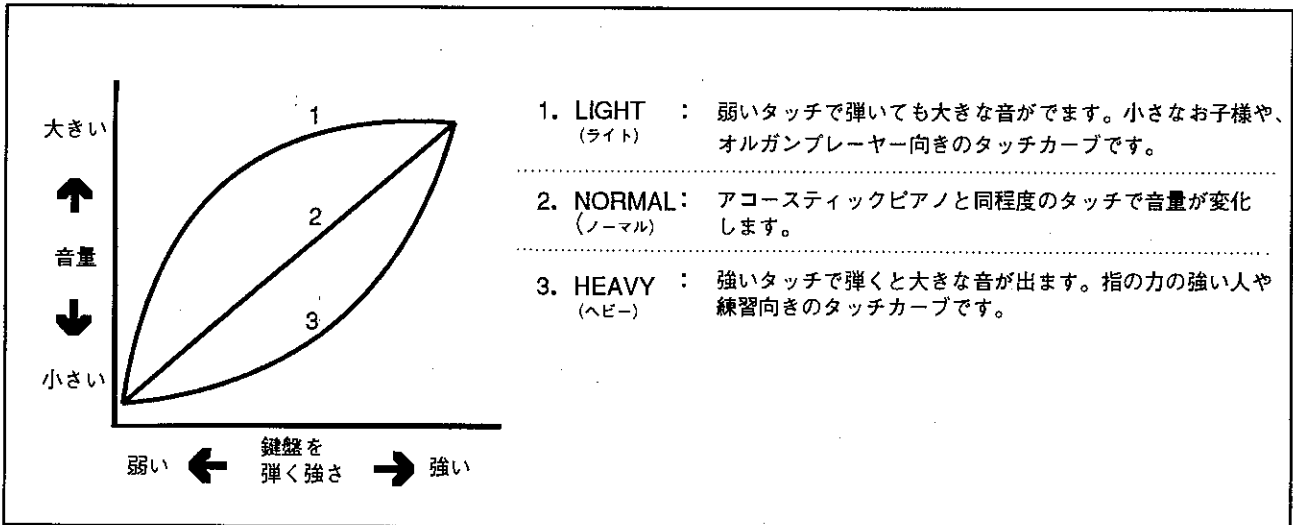


- 上の例では、D#が選択されています。
- TRANSPOSE ボタンのランプは、ハ長調 (C) 以外のキーにセットされている時に点灯します。

4) タッチカーブ

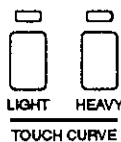
ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。

本機では、3種類のタッチカーブを選ぶことができます。



ステップ 1

タッチカーブセレクト③のLIGHTボタンまたは、HEAVYボタンを押してタッチカーブを選びます。



■ 選んだタッチカーブのボタンが点灯します。
どちらのランプも点灯していない時は、ノーマルが選択されています。

ステップ 2

タッチカーブをノーマルに戻したい時は、現在選ばれているタッチカーブのボタンを再度押して、ランプを消します。

■ 電源ON時は、タッチカーブはノーマルに設定されています。

5) デモ曲の演奏

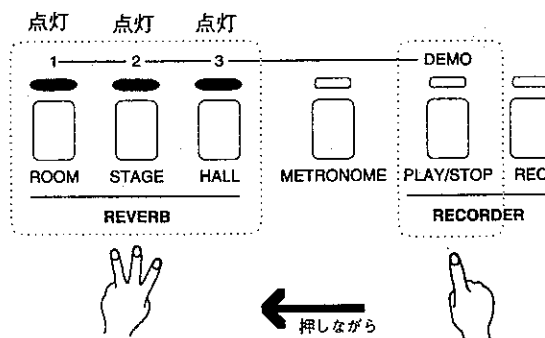
本機には、スーパーVM音源のすばらしさを生かした3つのデモ曲を内蔵しています。

曲番号	内容	作曲者	選択ボタン
1	華麗なる大円舞曲	(ショパン)	ROOM REVERB
2	アラベスク第1番	(ドビュッシー)	STAGE REVERB
3	12の練習曲作品10第4番	(ショパン)	HALL REVERB

ステップ1 デモ曲を聴くには...

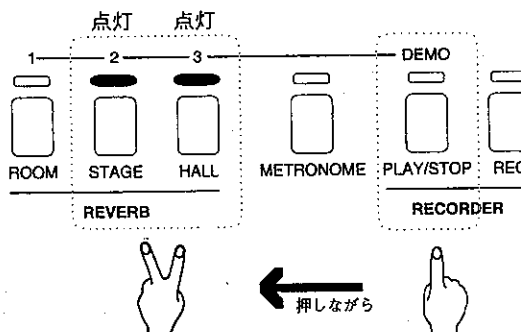
RECORDERのPLAY/STOPボタン(⑩の左側)を押しながら、聴きたい曲の選択ボタンを押します。

[例] 3曲のデモを全部聴きたい場合



■ 3曲のデモ曲が 1→2→3→1→2→... と繰り返して演奏されます。

[例] デモ曲2と3を聴きたい場合



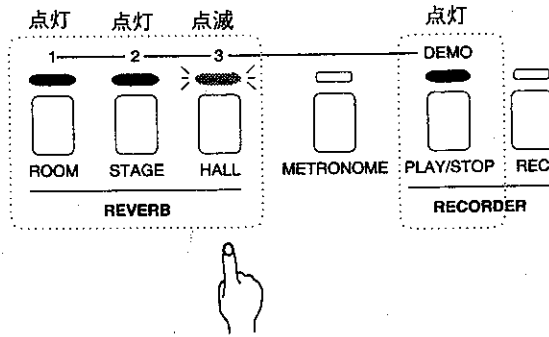
■ 3曲のデモ曲が 2→3→2→3→2→... と繰り返して演奏されます。

PLAY/STOPボタンから手を離すと、演奏が始まります。
ランプが点滅している曲が、演奏中、点灯している曲は待機中です。

ステップ 2

曲の順番をとばすには...

演奏中に、点灯または点滅している曲選択ボタンを押して、曲を選ぶことができます。



- この図では、演奏している曲がデモ曲3に変わります。
- "ステップ1" で選んでない曲を、"ステップ2" で選ぶことはできません。
- デモ曲演奏中は、リバーブの変更はできません。

ステップ 3

デモ曲の演奏を止めるには...

もう一度PLAY/STOPボタンを押すとデモ曲が止まります。

6) メトロノーム

メトロノームで楽しく練習しましょう。

ステップ 1 METRONOME ボタン⑨を押します。

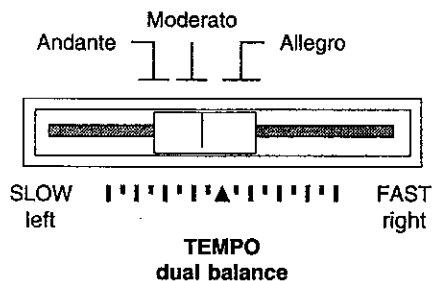
4/4拍子のメトロノームが鳴ります。



- メトロノームの拍子を3/4拍子や1/4拍子にかえたい方は、34ページを参照してください。
- メトロノームの音量を調整したい方は、33ページを参照してください。

ステップ 2 テンポを調整します。

メトロノームを聞きながらテンポスライダー⑩を左右に動かし好みのテンポに合わせます。



- テンポを希望の数値に合わせたい方（例えば♩=135にピッタリと合わせたい等）は、19ページを参照ください。

ステップ 3 METRONOME ボタンをもう一度押すと、ランプが消え、メトロノームが止まります。

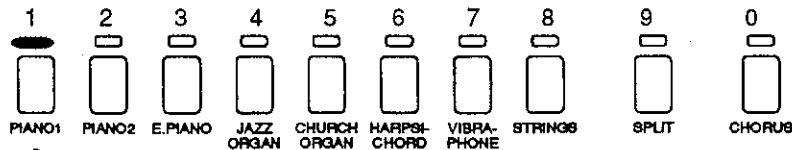
テンポを希望の数字に合わせたい方（例えば♩=135にピッタリと合わせたい等）は次の方法で設定して下さい。
付属の早見表を本機のパネルに貼り付けると操作がわかりやすくなります。

■ ♩=135 に合わせたい場合

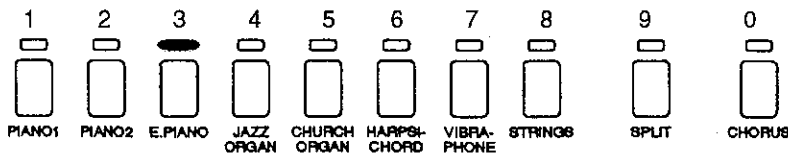
ステップ 1 右手でMETRONOME ボタンを押しながら、左手で図のように順々にボタンを押していきます。

[例] テンポを135にに設定する場合

1) 初めに"1" ボタン (100の位) のボタンを押します。

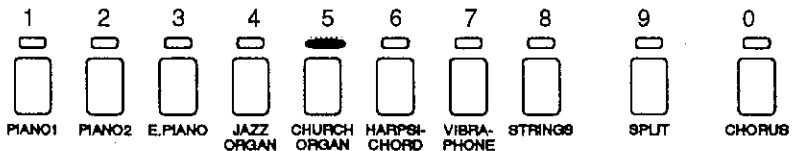


2) 次に"3" ボタン (10の位) を押します。



押しながら

3) 次に"5" ボタン (1の位) を押します。



ステップ 2 両手を離すとテンポが ♩=135 に設定されます。

- テンポ設定範囲は、♩ = 40 ~ 200 です。
- テンポ設定時は、パネルのテンポスライダーの値は無視されますが、設定後にテンポスライダーを動かすとテンポはスライダーに従います。

3. 録音・再生してみましょう。

本機では、自分の演奏を5曲まで、録音し再生することができます。

それぞれの曲は、2つのパートから構成されています。従って、1曲に2回の演奏を重ね合わせて録音ができます。

通常録音は、録音する曲の番号とそのパートを選択して行います。

再生も5つの曲から再生を行う曲を選んだ後、2つのパートのどちらかもしくは両方を選び再生を行います。

しかし、1曲目への録音/再生する時は、曲を指定せずに（カンタン録音/再生）録音/再生できます。

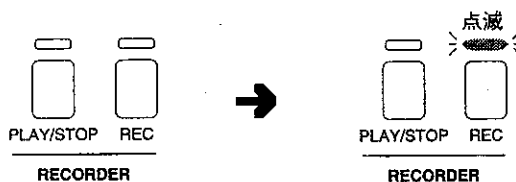
1) カンタン録音 (曲No.1への録音)

本機では、1曲目へ録音する場合、録音エリアを指定せずにカンタンに録音できます。

カンタン録音を行う時、パートはパート1に固定されます。

ステップ 1 録音準備を行います。

RECボタン (⑩の右側) を押します。



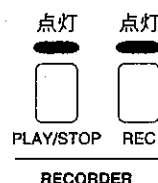
手を離すとRECボタンのランプが点滅し、録音待機状態になります。



ステップ 2 録音を開始します。

鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。

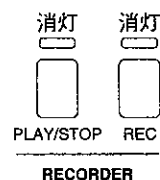
RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが点灯します。



■ "ステップ1"の後にPLAY/STOPボタンを押しても録音がスタートします。

ステップ 3 録音を終了します。

演奏が終わったらPLAY/STOPボタン (⑩の左側) を押します。



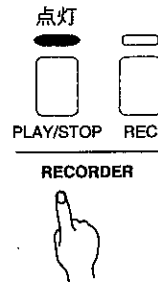
■ RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが消え、録音がストップします。

2) カンタン再生 (曲No.1の再生)

カンタン録音で録音を終わったらカンタン再生で再生してみましょう。

ステップ 1 カンタン再生します。

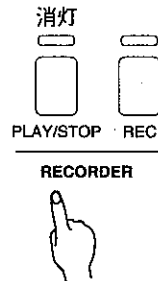
PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) を押します。



- 録音時の音色で再生が始まります。
- テンポスライダーで再生するテンポを調節できます。

ステップ 2 再度 PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) を押すと再生がストップします。

再度 PLAY/STOP ボタンを押すと再生がストップします。



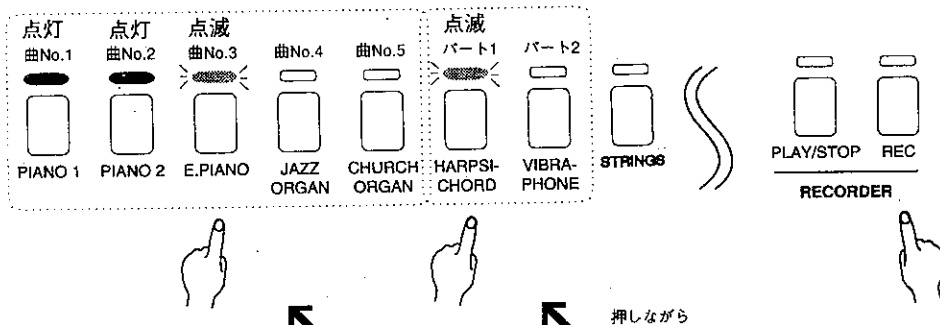
- 演奏が終了したら自動的に再生がストップします。
- 録音する前にメトロノームを鳴らしておくと、メトロノームにあわせて録音ができます。
(メトロノームの音は録音されません。)
- 一度録音して、再び録音を行うと、先に録音しておいた曲が消えてしまいます。

3) 通常の録音 (曲No.2~5への録音)

ここでは、1曲目以外の曲No.2~5へ録音する場合の方法を説明します。
 付属の早見表を本機のパネルに貼り付けると操作がわかりやすくなります。

ステップ 1 録音準備を行います。

RECボタン (⑩の右側) を押しながら曲No.ボタンを押せば、録音曲No. 選択状態となります。
 曲No.ボタンとパートボタンは、下図の様に音色ボタンに対応しており、例えば3曲目のパート1へ録音したい場合は下図の様な操作をしてください。



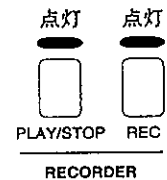
指定した曲No.ボタンとパート1ボタンが点滅し、録音される曲No.とパートを示します。RECボタンを離すと録音待機状態となりRECボタンが点滅します。また音色のボタン (設定する以前に選択していた音色) が点灯します。この音色で録音を行うことになります。

■この時、パート2へ録音したい場合は、RECボタンを押しながらパート2ボタンを押して点滅させてください。
 また、どちらかのパートに既に録音されており、その録音曲を再生しながら未録音のパートへ録音する場合は、録音したいパートを点滅させれば、録音済のパートは自動的に点灯になり、再生待機状態になります。
 また、既に録音済の曲の番号のボタンは、点灯しています。上図では、曲No.1と2には、既に曲が録音されていることが分かります。

ステップ 2 録音を開始します。

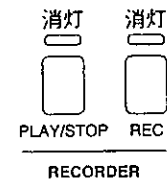
鍵盤を弾くと自動的に録音が始まります。
 このときRECボタン (⑩の右側) とPLAY/STOPボタン (⑩の左側) が点灯します。

鍵盤を弾かずにPLAY/STOPボタンを押して録音をスタートさせることもできます。



ステップ 3 録音を終了します。

演奏が終わったらPLAY/STOPボタン (⑩の左側) を押して録音をストップします。
 RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが消え、録音がストップします。



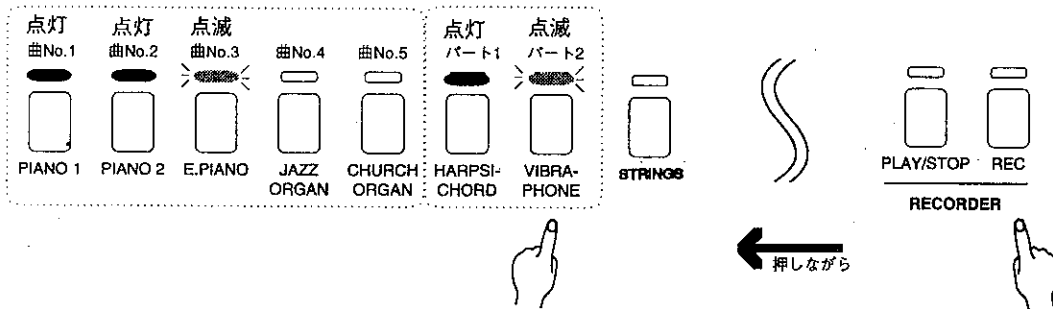
■既に録音済曲No.のパートを選んで新たに録音を行うと、以前の録音曲は消えてしまいます。

■ ひき続き、パート1 に録音した演奏を聞きながら、パート2 の録音をしてみましょう。

本機では、1曲は、2つのパートから構成されてますので、1曲につき2回の演奏を録音できます。
 "ステップ1" から "ステップ3" までの操作で、3曲目のパート1へ演奏を録音しましたが、ひき続き3曲目のパート2へ演奏を録音しましょう。

ステップ 4 パート2 への録音準備を行います。

RECボタン (⑩の右側) を押しながらパート2ボタン (VIBRAPHONEボタン) を押せば、録音待機状態となります。

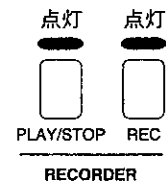


指定した曲No.3ボタンとパート2ボタンが点滅し、録音待機状態であることを示します。
 また、パート1ボタンが点灯していますが、"ステップ3"までの操作で録音したパート1の曲の再生待機状態であることを示しています。

ステップ 5 パート2への録音を開始します。

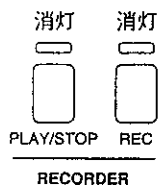
鍵盤を弾くと自動的にパート2の録音を開始され、同時にパート1が再生されます。
 このときRECボタン (⑩の右側) とPLAY/STOPボタン (⑩の左側) が点灯します。

鍵盤を弾かずにPLAY/STOPボタンを押して録音をスタートさせることもできます。



ステップ 6 録音を終了します。

演奏が終わったらPLAY/STOPボタン (⑩の左側) を押して録音をストップします。
 RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが消え、パート2の録音とパート1の再生がストップします。



4) 通常の再生

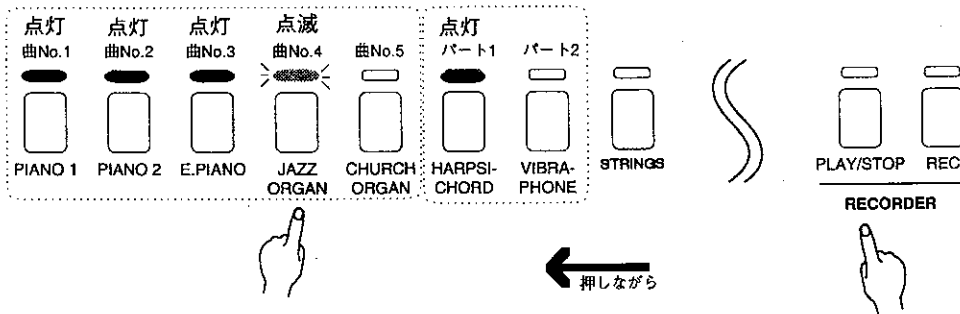
ここでは、1曲目以外の（曲No.2～曲No.5曲）へ録音された曲を再生する方法を説明します。

ステップ1

録音した曲を再生します。

PLAY/STOPボタン（⑩の左側）を押しながら再生をする曲No. ボタンを押します。
この2つのボタンから手を離すと再生が開始されます。

例えば4曲目を再生したい場合は、下図の様にPLAY/STOPボタン（⑩の左側）を押しながらJAZZ ORGAN（4曲目）ボタンを押して離します。



上の図では、パート1が点灯していてパート2が消灯しています。これはパート2が未録音であることを示しています。この場合、4曲目のパート1に録音されている曲が再生されます。パート2にも録音がされており、パート1と合わせて再生したい場合は、PLAY/STOPボタンを押しながらパート2ボタンを押して点灯させてください。

■曲番号ボタン/パートボタンとランプの関係

◆ 上図の様な場合、それぞれの曲の状態は以下の通りです。

- ・ 1曲目, 2曲目 (ランプ点灯) : 既に演奏が録音されている曲。
- ・ 3曲目 (ランプ点滅) : 今から再生(録音)を行う曲。
- ・ 4曲目, 5曲目 (ランプ消灯) : 曲が録音されていない曲。

◆ また、点滅中の3曲目のボタンのパートの状態がパート1, 2のランプに示されます。

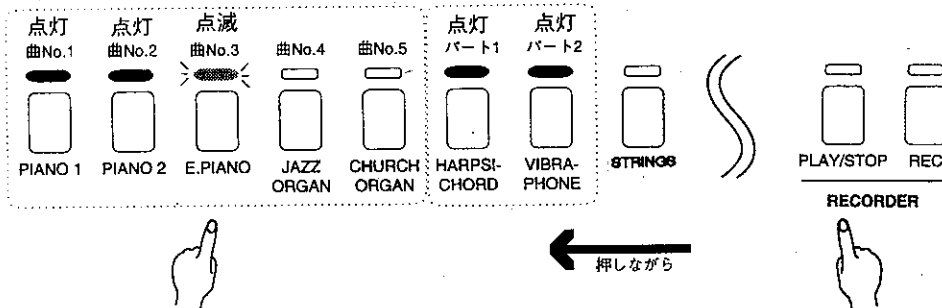
- ・ パート1 (ランプ点灯[点滅]) : 今から再生[録音]されるパート。
- ・ パート2 (ランプ消灯) : 録音されていないパート、またはミュートされているパート。

5) パート別の再生 (パートのミュート)

録音をした曲を再生する場合、パートをミュートして音を出さないようにすることができます。
次よりパート1、2の両方録音されている3曲目のパート2をミュート(消音)する操作を説明します。

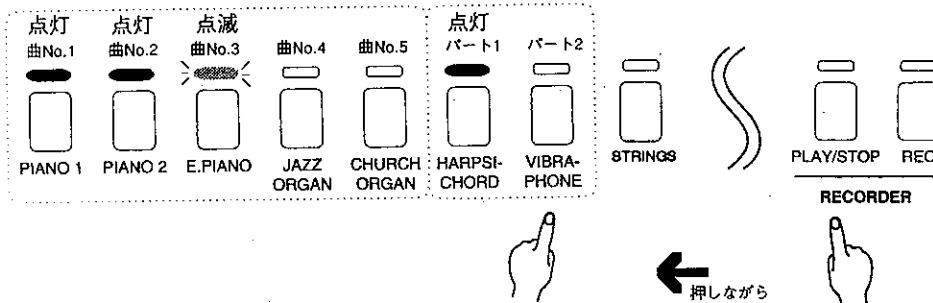
ステップ1 再生をする曲No.ボタン(No.3)を選択します。

PLAY/STOPボタン(⑩の左側)を押しながら再生をする曲No.ボタンを押します。



ステップ2 パート2のミュート設定を行います。

上の図の状態ですべてのボタンを押したままパート2ボタンを押します。
するとパート2ボタンのランプが消えパート2が再生時にミュートされることを示します。



ステップ3 曲No.3のパート1を再生します。

両手をボタンから離すと3曲目のパート1のみ再生されます。

■ パートミュートの補足

本ページでは、パート2のミュート方法を説明しましたがパート1をミュートする場合も同様にSTEP2の操作でパート1ボタンを押してランプを消して再生してください。

◆ パートボタンのランプと再生パートの関係



* ミュート時の音量を調節したい方は、P.35を参照ください。

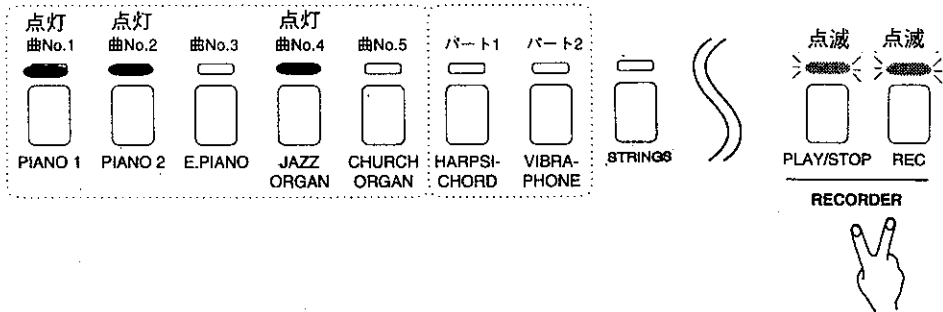
6) 曲の消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲を1曲ずつ消去します。

ステップ 1

PLAY/STOP ボタンとREC ボタンを同時に押します。

PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) とREC ボタンを同時に押すと録音されている曲のランプが点灯します。下図では、曲No. 1, 2, 4 が録音されていることになり、逆に曲No. 3, 5 が録音されていないこととなります。

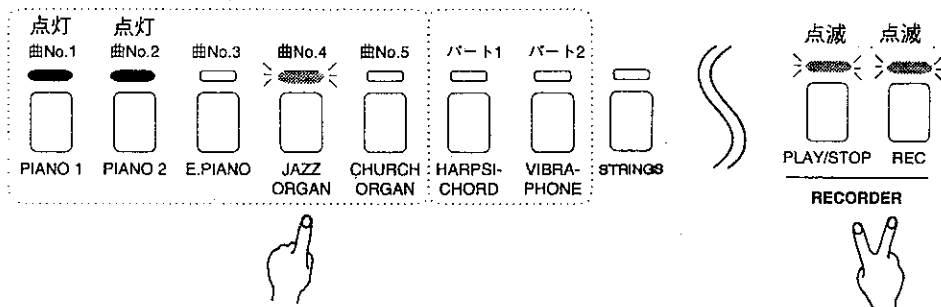


■ PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) とREC ボタンを同時に押したまま、"ステップ2"へ進んでください。

ステップ 2

消去する曲No.を選択します。

次に、PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) とREC ボタンを押したままの状態より、消去する曲No. ボタンを押して点滅させます。(下図では、曲No. 4へ録音した曲を消去する操作となっています。)



■ 消去を中止したい時は、PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) とREC ボタンを同時に押したまま、もう一度点滅している曲No. ボタンを押して点灯させます。

ステップ 3

消去完了。

両手をボタンから離すと曲No.4へ録音されている曲が消去されます。

- 複数の曲を消去するときは、"ステップ1~3"の動作を繰り返してください。
- レコーダーの総記憶容量は、約5,000音です。録音中に記憶容量一杯になったときは、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。
- レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切って一週間ほど電源を入れないでないとレコーダーの内容が消えてしまう場合があります。
- 録音されているすべての曲を消去したい場合は、PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) とREC ボタンを押したまま、電源を入れてください。

4. その他の機能の使い方 (設定モード)

本機には、いろいろなピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
この設定を行う場所を"設定モード"といい、この設定モードでは以下のメニューの設定を行うことができます。

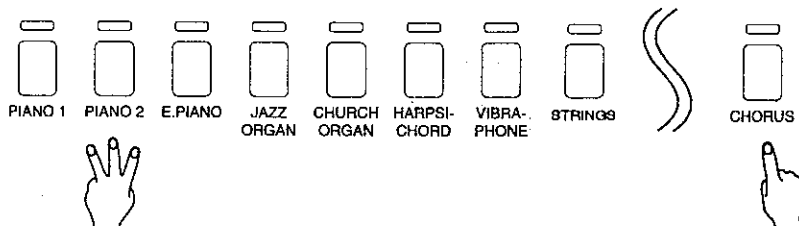
- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1) スプリット・ポイントの変更 | 7) MIDI送信・受信チャンネル |
| 2) チューニング | 8) プログラム(音色)ナンバー送信 |
| 3) 音律の設定 | 9) マルチ・ティンバー・モード |
| 4) メトロノームボリューム | 10) マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音 |
| 5) メトロノームの拍子 | 11) ローカルコントロール |
| 6) レコーダーのミュートボリューム | 12) ワンタッチ・ローカルコントロール・オフ |

次より上記各設定を行う粗筋を説明します。

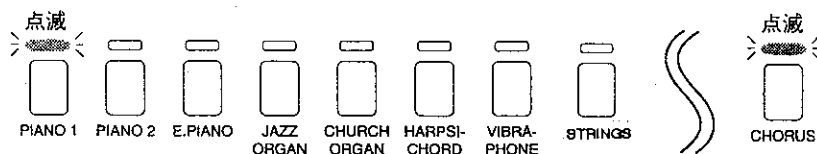
(1) はじめに"設定モード"へ入ります。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。

CHORUSボタンを押しながらPIANO1、PIANO2、E.PIANOボタンを同時に押します。
(どの音色セレクトボタンが点灯していてもかまいません。)



すると、CHORUSボタンとPIANO1ボタンが点滅し設定モードに入ったことを示します。



■PIANO1のランプの点滅は、後で説明するプログラムナンバー送信の設定モードにセットされたことを示します。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

(2) 次に各設定メニューを選びます。

1) で設定モードに入った後、各設定メニューを選びます。

この各設定メニューは、下図の通り各音色セレクトボタン⑤に対応しており、そのボタンを押すことにより選択します。

1. プログラムナンバーの送信のオン/オフ
パネル操作の送信のオン/オフ

2. MIDIチャンネルの設定
マルチティンバーモードのオン/オフ

3. ローカルコントロールのオン/オフ
マルチティンバー各チャンネルのオン/オフ

4. チューニングの調整

5. 音律の設定

6. スプリットポイントの変更

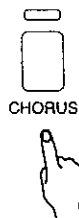
7. メトロノームボリュームの設定/拍子の設定

8. レコーダーのミュートボリュームの設定

(3) 設定モードからの出かた

CHORUS ボタン⑦を再度押します。

ランプの点滅が消え"設定モード"から出ます。



"設定モード"から出ると、"設定モード"に入る前の状態に戻ります。

■ CHORUS ボタンを押さずに他の音色セレクトボタンを押せば、引き続き他の設定モードに移ることができます。

1) スプリット・ポイントの変更

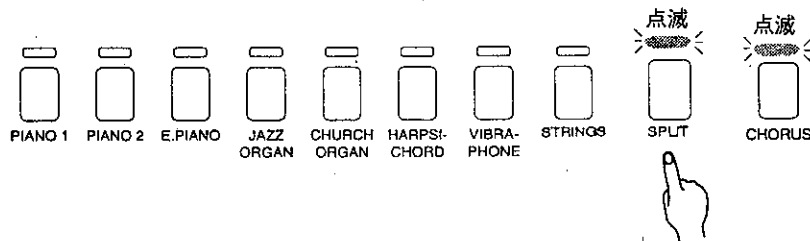
ここでは、スプリットモード (P.11) におけるスプリットポイントを変更します。

本機では、電源ON時におけるスプリットポイントは、SPLITPOINT ② (パネル印刷の所P.7参照) に設定されています。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27参照)

前ページで説明した手順で、設定モードに入ります。CHORUSボタン⑦とPIANO1ボタンのランプが点滅します。

ステップ 2 SPLITボタンを押します。

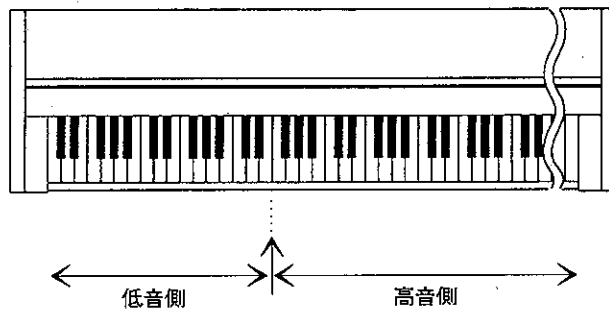


■ この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

PIANO1ボタンの点滅がSPLITボタンの点滅に変わり、スプリットポイントの変更ができるモードになります。

ステップ 3 設定したい鍵盤を押します。

鍵盤を押すことによって、1~88鍵中の任意の箇所にもスプリットポイントを設定することができます。押した鍵盤が高音側の最低音になります。(一番左側の鍵盤を押せば全鍵高音側になります。)



ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28参照)

前ページで説明したようにCHORUSボタンを押せば、"設定モード"よりでます。

引き続き他の設定メニューを設定したい場合は、そのままメニューに対応した音色ボタンを押してください。

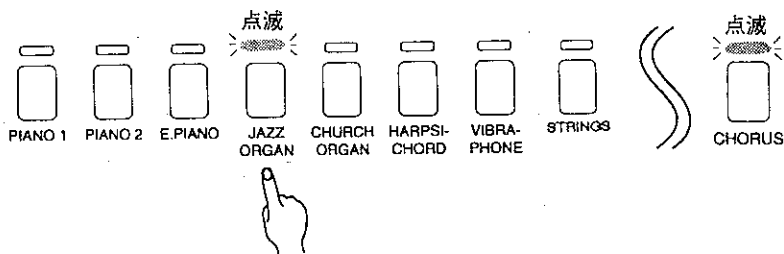
■ 電源をONし直すとスプリットポイントは元に戻ります。

2) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27参照)

ステップ 2 JAZZ ORGAN ボタンを押します。

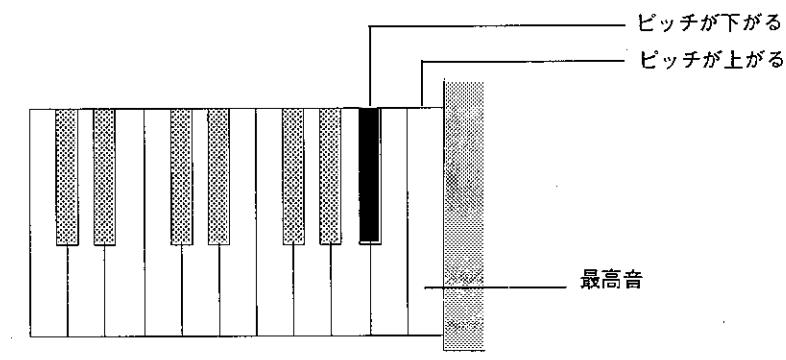


JAZZ ORGANが点滅し、チューニングのメニューが選ばれました。

■この状態で鍵盤を弾くと、"設定モード"にはいる前に選ばれていた音色が鳴ります。チューニング調整は、この音色を使って行います。音色を変えたい場合は一度"設定モード"から出て音色を選びなおしてから、再度"ステップ1"、"ステップ2"の操作を行います。

ステップ 3 チューニングを調整します。

右端の白鍵を押すごとにピッチが少しずつ上がります。また、右端の黒鍵を押すごとにピッチが少しずつ下がります。



■チューニングできる範囲は、±50セントです。(100セント=半音)。1回押すごとに100/64セント変化します。

ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28参照)

■電源をオンし直すとチューニングは元に戻ります。

3) 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を全部で6種類本体にセットしています。

本機にセットされている音律は以下の通りです。

■各音律の特長

◆平均律	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。
◆純正律	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ピタゴラス音律	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
◆中全音律	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ヴェルクマイスター第三法 キルンベルガー第三法	調合の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調合が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した"調性の性格"を反映することのできる調律法です。

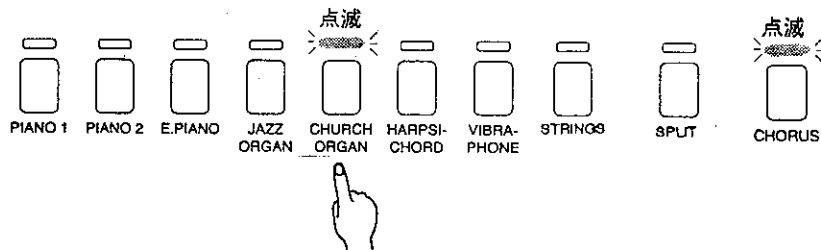
次より設定方法を説明していきます。

ステップ 1

設定モードに入ります。(P.27 参照)

ステップ 2

CHURCH ORGAN ボタンを押します。

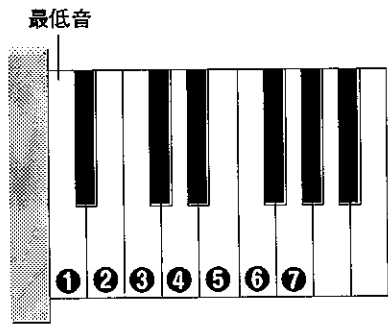


CHURCH ORGAN ボタンが点滅し、音律設定のメニューが選ばれました。

■この状態で鍵盤を押しても音がでません。

ステップ 3 音律の設定を行います。

音律の設定は左端から7個の白鍵を使用します。
 その7個の白鍵にはそれぞれ、以下のように7種類の音律が対応しています。
 設定する音律の対応しているボタンを押して設定を行います。



- ① 平均律 (調律曲線を使わない平坦な平均律)
- ② 純正律
- ③ ピタゴラス音律
- ④ 中全音律
- ⑤ ヴェルクマイスター第三法
- ⑥ キルンベルガー第三法
- ⑦ 平均律 (電源ON時のピアノ調律曲線に沿った平均律)

■ 電源ON時は、平均律(ピアノの調律曲線に沿った平均律) になっています。

■ 調の設定は、音律が設定されている場合、このモードの状態の下図の鍵盤を使って行います。
 電源をオンにして初めて音律設定を行ったとき、調は各音律のC調になります。
 この調を例えばDに変えたいときは、下図のDの鍵盤を押してください。

ステップ 4 設定終了後、設定モードからでます。(P.28 参照)

4) メトロノームボリューム

メトロノームのボリュームはVOLUME①で調節できますが、鍵盤の音に対するバランス設定は、以下の手順で行います。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27 参照)

ステップ 2 METRONOME ボタン⑨を押します。

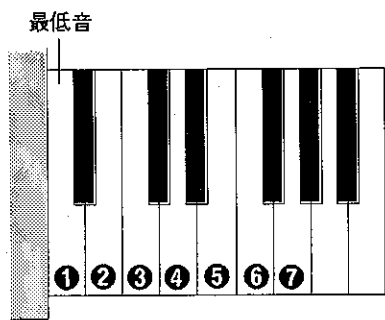


メトロノームが鳴りMETRONOME ボタンが点滅し、メトロノームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3 メトロノームボリュームの音量の変化具合を設定します。

ボリュームの設定は左端から7個の白鍵を使用します。



■ボリュームは、"①"が一番小さく"⑦"が一番大きい設定となっています。
"④"が電源オン時の設定です。

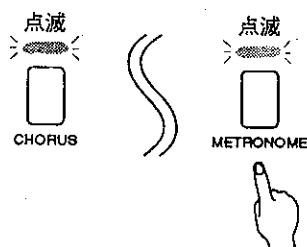
ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28 参照)

5) メトロノームの拍子

メトロノームの拍子を、4/4、3/4、1/4の3種類の中から選択します。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27 参照)

ステップ 2 METRONOME ボタン⑨を押します。

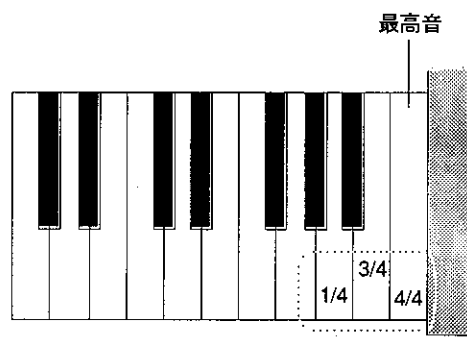


メトロノームが鳴りMETRONOME ボタンが点滅し、メトロノームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3 メトロノームの拍子を3種類の中から選択します。

拍子設定は右端から3個の白鍵を使用します。



■電源オン時、拍子は4/4に設定されています。

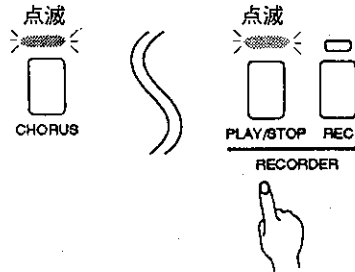
ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28 参照)

6) レコーダーのミュートボリューム

ここでは、録音曲の再生時にミュートしたパートの音量を設定します。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27 参照)

ステップ 2 PLAY/STOP ボタン (⑩の左側) を押します。

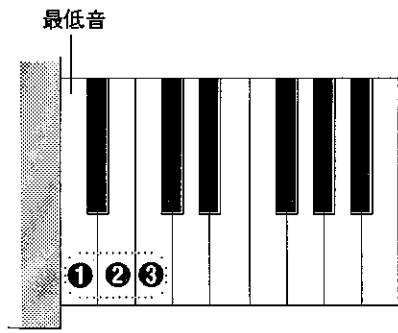


PLAY/STOP ボタンが点滅し、レコーダーのミュートボリュームの設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3 ミュートボリュームの設定をします。

ミュートボリュームの設定は、左から3個の白鍵を使用します。
 ボリュームは、①が一番小さく③が一番大きい設定となっています。②が電源オン時の設定です。



ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28 参照)

■ MIDI機能の使い方

ここで、MIDIについて説明をしておきます。

■ MIDIについて

MIDI について簡単に説明します。

MIDI (ミディ) とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

MIDI端子には、IN、OUT、THRU の3つの種類があります。いずれも MIDI専用ケーブルで接続します。

- IN : 鍵盤情報や音色情報を受信します。
- OUT : 鍵盤情報や音色情報を送信します。
- THRU : 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

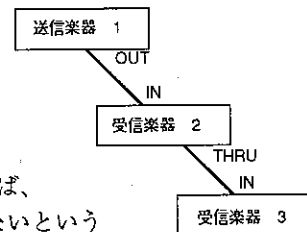
MIDIには、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば3台の楽器を次のように接続して演奏するとします。

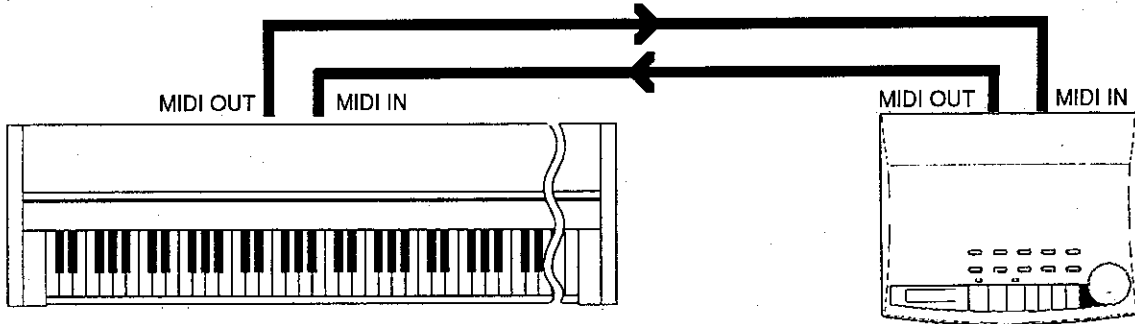
送信楽器1 は送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器2, 3 に送ります。受信楽器2, 3 にはこの情報が送られて来ます。基本的には受信楽器2, 3 の受信チャンネルと送信楽器1 の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。

チャンネル番号は、送信、受信とも1 ~ 16までの番号を使用することができます。



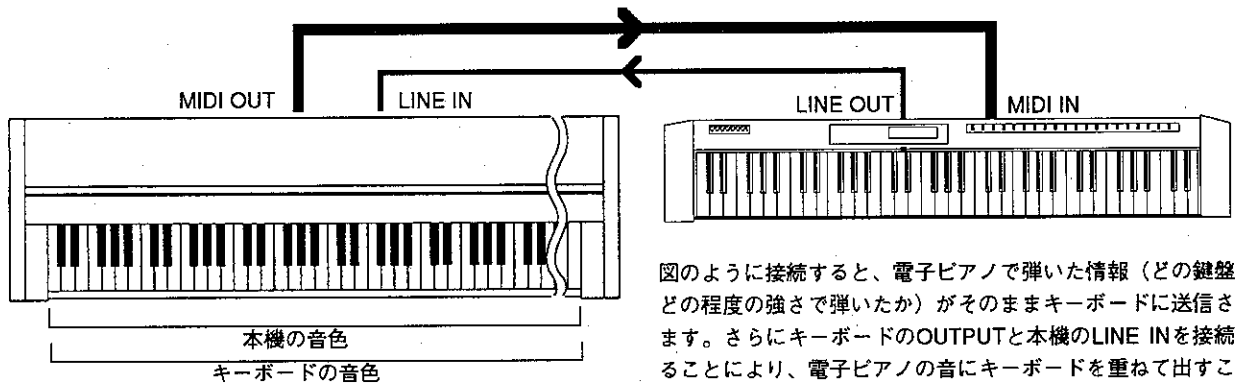
■ MIDIの使用例

(1) シーケンサーを使つての録音/再生



図の様に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン (P.43参照) にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハーブシコード、ピブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。シーケンサーにカワイQ-55を使用した場合、Q-55側のボタンひとつで簡単にアンサンブル録音/再生が可能です。シーケンサーの取扱についてはシーケンサーの取扱説明書をお読みください。

(2) 他のMIDI対応キーボードとのアンサンブル

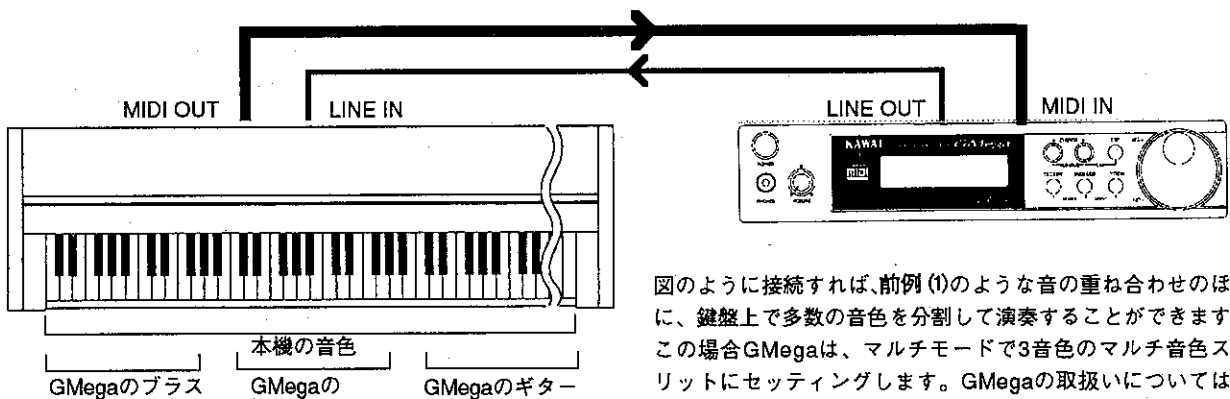


図のように接続すると、電子ピアノで弾いた情報（どの鍵盤をどの程度の強さで弾いたか）がそのままキーボードに送信されます。さらにキーボードのOUTPUTと本機のLINE INを接続することにより、電子ピアノの音にキーボードを重ねて出すことができます。

音色は、別々に設定できますので、電子ピアノのピアノ音にキーボードのストリングスの音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫していろいろなアンサンブルを創り出すこともできます。

また、MIDI INとMIDI OUTの接続を逆にすればキーボードの方を弾いて電子ピアノの音を出すこともできます。

(3) シンセサイザー音源モジュールとのプレイ



図のように接続すれば、前例(1)のような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を分割して演奏することができます。この場合GMegaは、マルチモードで3音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。GMegaの取扱いについては、GMegaの取扱説明書をお読みください。なお、カワイ音源モジュールK4rでも同様のことができます。

■本機MIDI機能

本機のMIDI機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信

電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを1～16の範囲で設定することができます。

◆ プログラム(音色)ナンバーの送信

電子ピアノとMIDIで接続したシンセサイザー等の音色(プログラムされた音色)を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダルのオン/オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌートペダルの場合は、オン/オフの送信ができます。

◆ ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定

電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信

レコーダーに録音した演奏を、MIDIで接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

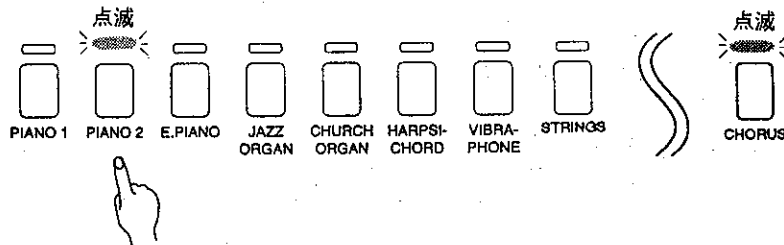
本機のMIDI機能についての詳細は、「MIDIインプリメンテーションチャート」(巻末)をご覧ください。

7) MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器とさまざまな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておく必要があります。チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの2種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27参照)

ステップ 2 PIANO2ボタンを押します。

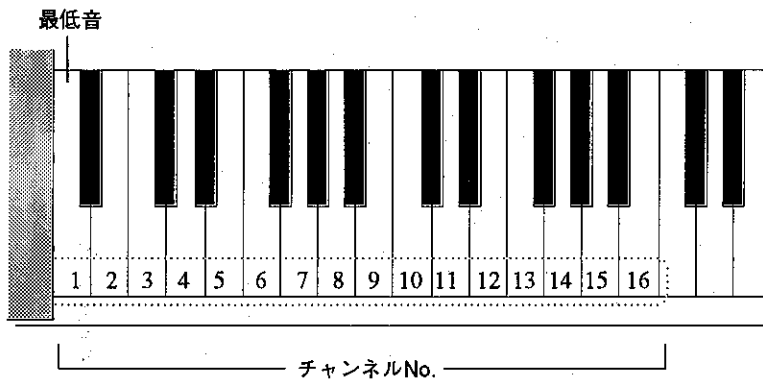


PIANO2ボタンが点滅し、MIDIチャンネルおよびマルチティンバー設定のメニューが選ばれました。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3 設定したいチャンネルの鍵盤を押します。

MIDIチャンネルの設定は左端から16個の白鍵を使用します。



設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルともそのナンバーに設定されています。

ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28参照)

■本機は電源オン時には、1~16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。

8) プログラム (音色) ナンバー送信

(1) 音色セレクト・ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

本機では、通常の演奏中に8個の音色セレクトボタン⑤を切り替えることにより、下表のような0~7までのプログラムナンバーを送信できるようになっています。

音色セレクトボタン	プログラム・ナンバー
PIANO1	0
PIANO2	1
E.PIANO	2
JAZZ ORGAN	3
CHURCH ORGAN	4
HARPSICHORD	5
VIBRAPHONE	6
STRINGS	7

また音色セレクト・ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、スプリット、エフェクト (コーラス、リバーブ) のボタン操作をMIDIエクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか (オン/オフ) を設定することができます。

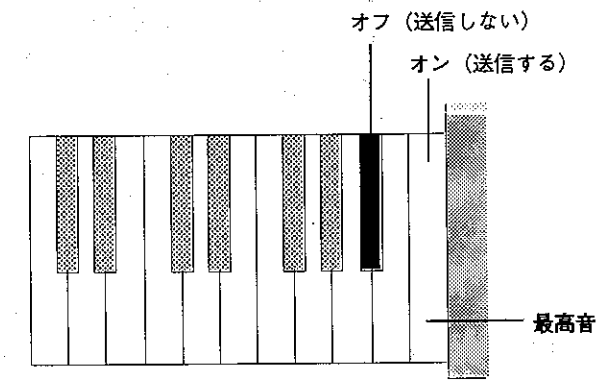
ステップ 1 "設定モード" に入ります。(P.27 参照)

PIANO1ボタンの点滅は、プログラムナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

■この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 2 オン/オフの設定。

オンに設定する場合は、右端の白鍵を押してください。
オフに設定する場合は、右端の黒鍵を押してください。



ステップ 3 設定終了後、"設定モード" からでます。(P.28 参照)

■電源オン時は、音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信は、自動的にオンにセットされます。

■デュアル/スプリットモード時には、デュアル/スプリット各モードのオン/オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。

(2) 黒鍵を使用した送信

本機では、音色セレクトボタン⑤による送信の他に、黒鍵を使って0~127までのプログラムナンバーを送信することができます。

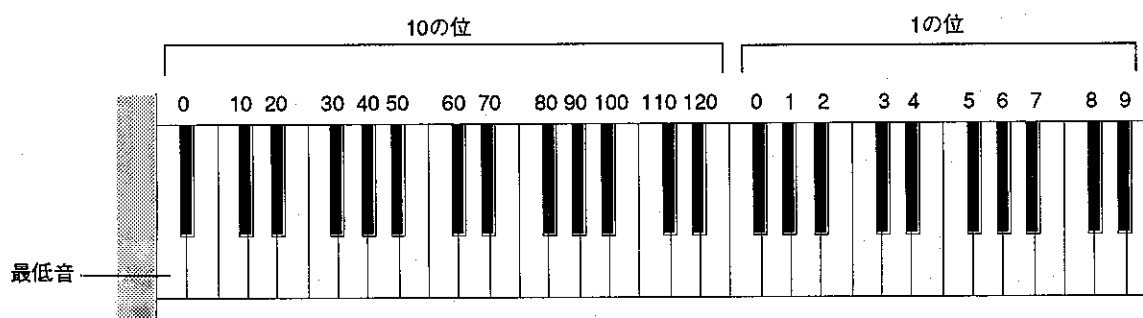
ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27参照)

PIANO1ボタンの点滅は、プログラムナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

■その他の設定モード(CHORUSと他のランプが点滅)に続いて設定する場合は、PIANO1ボタンを押してください。

ステップ 2 鍵盤を押してプログラムナンバーを送信します。

プログラムナンバー送信には、黒鍵を使用します。下図の様に、左端から13個の黒鍵で10の位 (0~120)、次の10個で1の位 (0~9) をセットします。10の位を押した後1の位を押すことにより、プログラムナンバーを送信します。

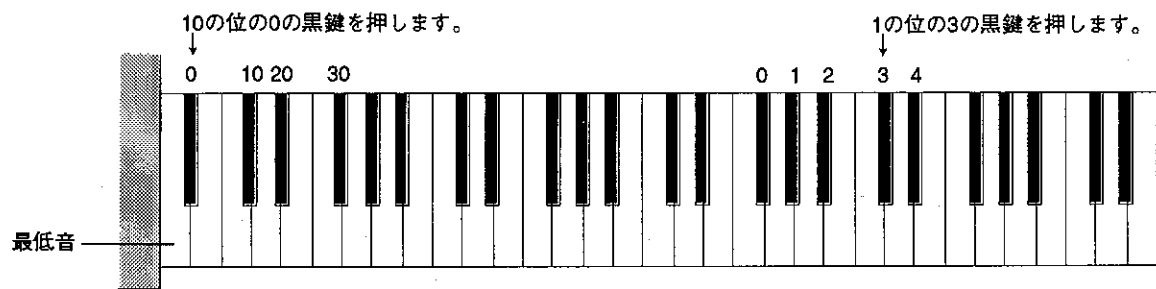


■10の位が共通なプログラムナンバーを送信する場合、10の位を押し直す必要は無く、1の位を押し直すだけでプログラムナンバーを送信することができます。

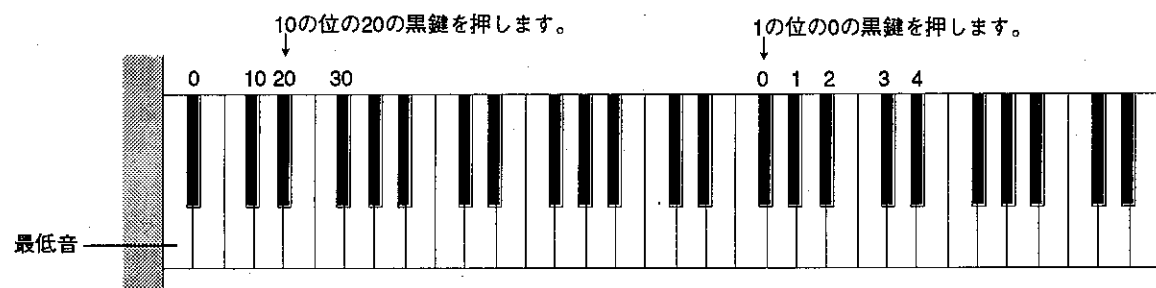
■"設定モード"に入ったときは、10の位は0にセットされています。

プログラムナンバー送信例

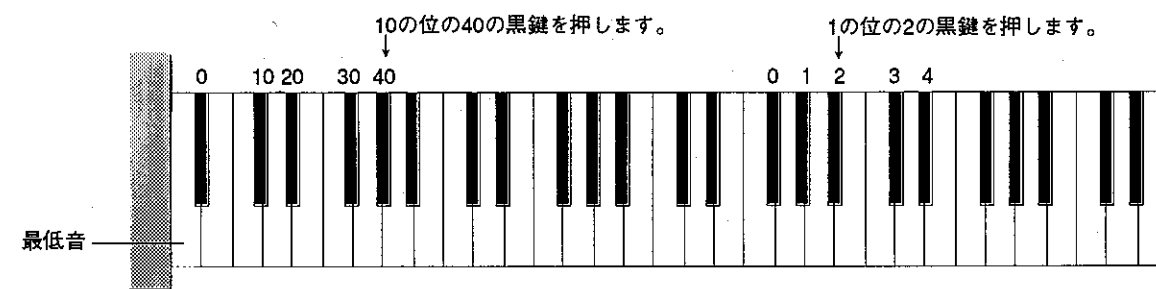
◆プログラムナンバー 3 を送信する場合



◆プログラムナンバー 20 を送信する場合



◆プログラムナンバー 42 を送信する場合



ステップ 3

設定終了後、" 設定モード " からです。(P.28 参照)

■他のMIDI楽器からプログラムナンバーを受信したときには、プログラムナンバー送信のオン/オフに関係なく受信したプログラムナンバーに対応して40ページの表の音色セレクトボタンが点灯します。

9) マルチ・ティンバー・モード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。

この機能により、外部にQ-55などのシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチ・ティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

本機には、2種類のマルチ・ティンバー・モードを装備しています。マルチ・ティンバー・モード1は、受信したMIDIチャンネルに対応して下記の【A表】の音色が鳴ります。マルチ・ティンバー・モード2は本機の他に別の音源モジュール等を使うMIDI上級者向けのモードです。各チャンネル毎に発音するかしないかを選択できます。また各チャンネル毎にプログラムチェンジ情報を受信することによって下記の【B表】に対応した音色変更をすることができます。マルチ・ティンバー・モード2では、最初2～10チャンネルの発音はオフになっています。

MIDI1～8チャンネルには、パネル上の各音色が、また、14～16チャンネルには、スプリットモード時のベース音色が割り当てられます。

【A表】

チャンネル No.	音色	チャンネル No.	音色	チャンネル No.	音色
1	PIANO1	7	VIBRAPHONE	13	BELL
2	PIANO2	8	STRINGS	14	WOOD BASS
3	E.PIANO	9	E.PIANO2	15	ELECTRIC BASS
4	JAZZ ORGAN	10		16	SLAP BASS
5	CHURCH ORGAN	11	CLAVI		
6	HARPSICHORD	12	PIPE ORGAN		

【B表】

プログラム チャンネル No.	音色	プログラム チャンネル No.	音色	プログラム チャンネル No.	音色
0	PIANO1	6	VIBRAPHONE	12	WOOD BASS
1	PIANO2	7	STRINGS	13	ELECTRIC BASS
2	E.PIANO	8	E.PIANO2	14	SLAP BASS
3	JAZZ ORGAN	9	CLAVI	15～127	PIANO1
4	CHURCH ORGAN	10	PIPE ORGAN		
5	HARPSICHORD	11	BELL		

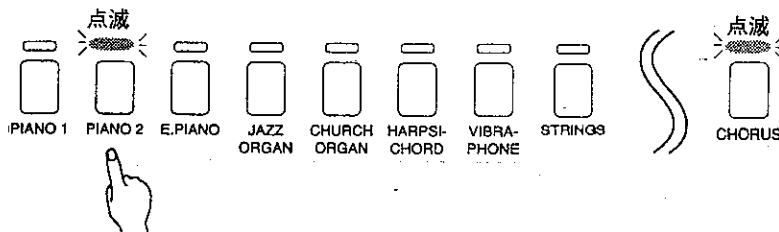
ステップ 1

"設定モード"に入ります。(P.27 参照)

ステップ 2

PIANO2 ボタンを押します。

PIANO2 ボタンが点滅し、マルチ・ティンバー・モードの設定のメニューが選ばれました。(MIDIチャンネルの設定と同じです。)



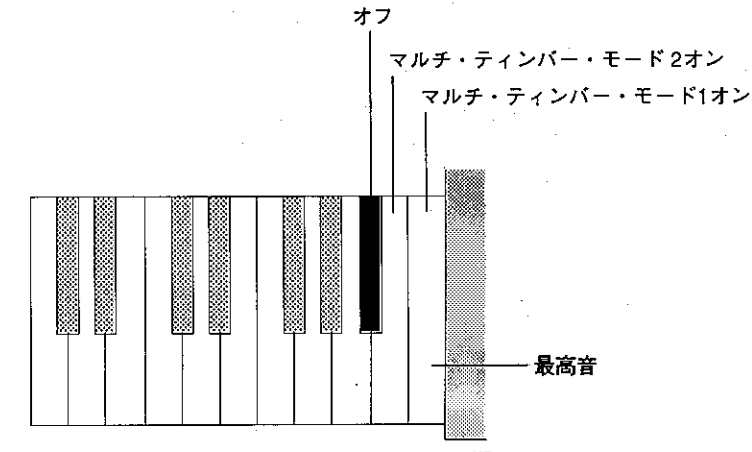
■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

ステップ 3

オン/オフの設定をします。

右端より3つの鍵盤を使って設定します。

下図のように右端の白鍵を押すと、マルチ・ティンバー・モード1 がオン、右から2番目の白鍵を押すとマルチ・ティンバー・モード2 がオン、黒鍵を押すとオフになります。



マルチ・ティンバー・モード1 がオフのときに、MIDI情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクトボタンの音色が鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード1 がオンのときは、どの音色セレクトボタンが選ばれていても受信したMIDIチャンネルに対応して前ページの [A表] の音色が無条件に鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード2 がオンに設定されると、受信チャンネルごとに発音のオン/オフを設定することができます。

■電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

■マルチ・ティンバー・モード1または2がオンのとき、スプリットの状態になっていた場合でも、各受信チャンネルの音色は全てフルスケールで発音します。

送信時には、高音側が上記で設定されているMIDIチャンネルに低音側は、そのチャンネル+1のMIDIチャンネルに設定されます。

ステップ 4

設定終了後、"設定モード" からでます。(P.28 参照)

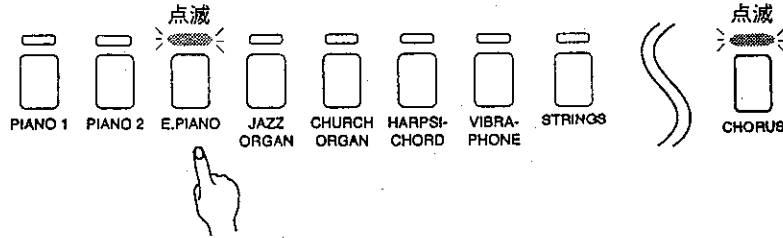
10) マルチ・ティンバー・モード2の各チャンネルの発音

マルチ・ティンバー・モード2がオンに設定されていると、次の操作で各チャンネルの発音のオン/オフが設定できます。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27参照)

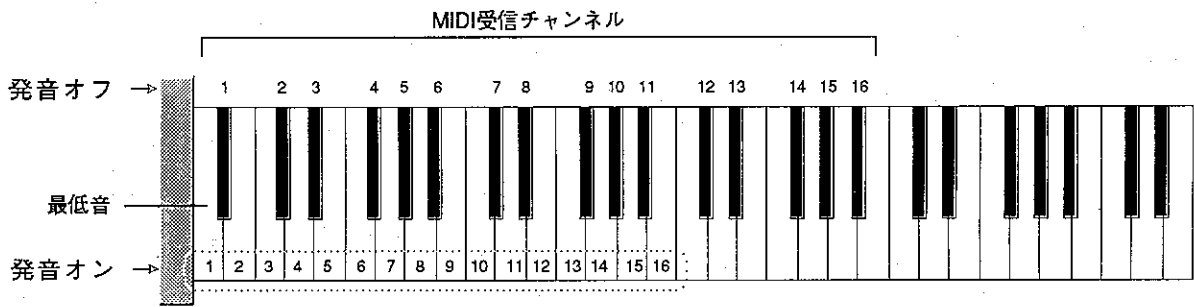
ステップ 2 E.PIANO ボタンを押します。

E.PIANO ボタンが点滅し、マルチ・ティンバー・モード2の設定のメニューが選ばれました。



ステップ 3 各チャンネルの発音のオン/オフの設定を行います。

設定は鍵盤左側の白鍵または黒鍵を使用します。
 オンに設定する場合は、左端から16個の白鍵を押してください。
 オフに設定する場合は、左端から16個の黒鍵を押してください。



ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28参照)

11) ローカルコントロール

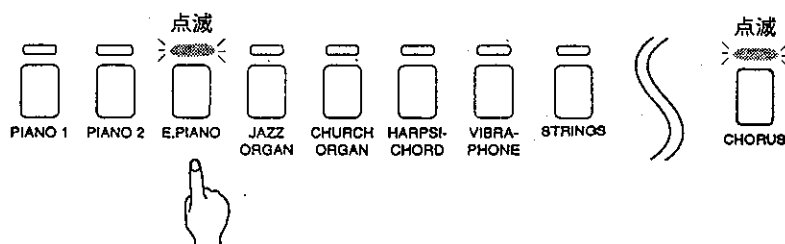
このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロールオン/オフモードと呼ばれます。

ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らずにMIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。

ステップ 1 "設定モード"に入ります。(P.27 参照)

ステップ 2 E.PIANO ボタンを押します。

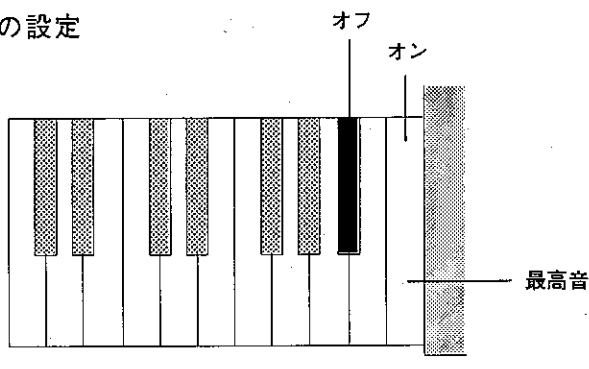
E.PIANO ボタンが点滅し、ローカルコントロールオン/オフの設定のメニューが選ばれました。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

ステップ 3 ローカルコントロールオン/オフの設定

設定は、右端の黒鍵または白鍵を押して行います。
オンに設定する場合は、白鍵を押してください。
オフに設定する場合は、黒鍵を押してください。



■電源オン時、ローカルコントロールはオンに設定されています。

ステップ 4 設定終了後、"設定モード"からでます。(P.28 参照)

■ 9、11～13チャンネルに割り当てられている各音色を、他のMIDI機器を使わず本機の鍵盤で弾きたい場合

ステップ 1

設定モードに入り (P.27 参照)、マルチティンバーモード1 (P.44 参照) をオンにします。

ステップ 2

前ページの "ステップ2" の操作を行いローカルコントロールをオフに設定します。

ステップ 3

PIANO2ボタンを押し、チャンネル設定モードに入り、MIDIチャンネルを9、11～13のどれかに設定します。(P.40 参照)

ステップ 4

CHORUS ボタン を押し "設定モード" から出ます。(P.28参照)

ステップ 5

本体の背面にあるMIDI IN端子とMIDI OUT端子を一本のMIDIケーブルで接続します。

■ 通常の演奏の場合は、このようなMIDIケーブルの接続はしないようにしてください。

以上の操作により、9,11～13チャンネルに割り当てられている各音色を鍵盤で弾くことができます。

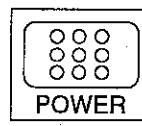
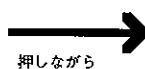
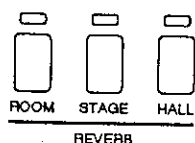
■ "ステップ2" でローカルコントロールをオンにしておく、パネル上の音色セレクトボタンで選んだ音色と重ねて演奏することができます。

12) ワンタッチローカルコントロールオフ

以下の操作を行うと、ワンタッチでローカルコントロールがオフに設定されます。

ステップ 1

リバーブの3つのボタンを押しながら電源スイッチをオンにします。



■ 主な仕様

■ 鍵盤	木製88鍵 / AWA Grand 鍵盤
■ 発音数	32 (コーラス使用時16)
■ 音色	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、ジャズオルガン、チャーチオルガン、ハーブシコード、ビブラフォン、ストリングス ウッドベース、エレクトリックベース、スラップベース (スプリットモード時)
■ 効果	コーラス、リバーブ (ルーム、ステージ、ホール)
■ 音律	平均律 (2)、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第III法、キンベルガー第III法
■ その他の機能	ボリューム、ブリリアンス、トランスポーズ、チューン、デュアル、スプリットデュアル/スプリットバランス、スプリットポイント変更、タッチカーブ選択 (ライト、ノーマル、ヘビー)
■ レコーダー	2パート (トラック) × 5ソング、総記録容量 約5,000音
■ メトロノーム	4/4、3/4、1/4拍子
■ ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン (2)、ペダル、MIDI (IN、OUT、THRU) LINE IN (L、R)、LINE OUT (L/MONO、R)
■ 出力	30W×2
■ スピーカー	13cm×2 (エンクロージャー付)、9cm×5cm×2
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	60W
■ 仕上げ	ブックソロモン
■ 寸法	142×51×90 (スタンド含む)
■ 重量	69Kg (スタンド含む)

KAWAI [Model PW810] MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : MAR '95
Version : 1.0

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1~16	1 1~16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 モード1.3** ×	** 電源ON時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	21-108* *****	0-127 15-113	
ベロシティ	ノート、オン ノート、オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ、ベンド		×	×	
コントロール チェンジ		7 × 64 ○ (右ペダル) 66 ○ (中ペダル) 67 ○ (左ペダル)	○ ○ × ○	ホリウム ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○ (0-127) *****	○ (0-127)***	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備 考		* 15-113 トランスポーズによって変化する。 *** 8-127=0 (マルチティンバーOFF/1時) 15-127=0 (マルチティンバー2時)		

モード1 : オムニオン、ポリ モード2 : オムニオン、モノ
モード3 : オムニオフ、ポリ モード4 : オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

KAWAI

河合楽器製作所 電子楽器事業本部

〒430浜松市寺島町200番地

TEL.<053>457-1277

FAX.<053>457-1279

9503L

Printed in Japan